

施策番号	2403		
施策名	既存住宅の流通活性化のための条件整備		
概要	空き家を含む既存住宅が正当に評価される仕組みを構築して流通を促進するとともに、性能表示制度などの良質な既存住宅を安心して取得できる環境整備を行う。		
担当局・部室	都市計画局・住宅室	共管局・部室	
上位政策	24 住宅		
施策に関する主な分野別計画等	京都市住宅マスタープラン		

施策の評価

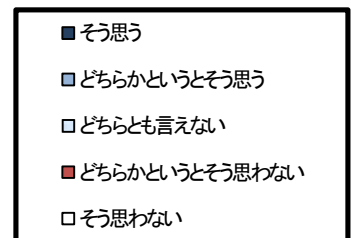
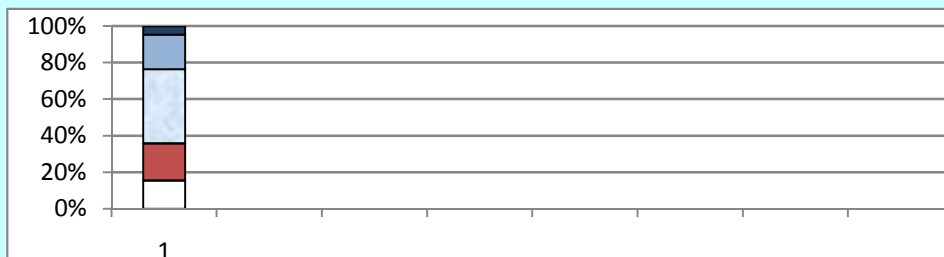
1 客観指標評価

指標名	年度	年度	23年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1 中古住宅の売買件数(件)	-	-	2,096	2,117	2,313	91.5%	b	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価							b	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	23年度回答					有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 身近な地域で空き家が減っている。	26 4.6%	106 18.9%	227 40.5%	114 20.4%	87 15.5%	560	c
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
市民生活実感調査総合評価							c



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					年度	-
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	b	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 市場での中古住宅の価値や流通の見通しといった流通活性化を示す具体的な指標が客観指標であるため。						年度	-
(原因分析) ・中古住宅のリフォームや住宅性能表示制度の認知が一定進んできている中、既存のストックを手入れして長く大切に使うという市民の意識も高まり、既存の住宅の活用が一定進んできているものと考えられる。						年度	-

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	地域連携型空き家流通促進事業	12,678	21,192	かなり良い	都市計画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

・活用に至った、又は、市場に出された空き家の数は目標件数に達しているが、引き続き、地元組織と不動産事業者等が連携して自立的かつ継続的に空き家の有効活用を図る仕組みを運営するモデルが構築され、そのモデルを活用して市内全域で空き家の流通促進が図られる状態としていく。

施策名	2403	既存住宅の流通活性化のための条件整備				
指標名	中古住宅の売買件数（件）					
担当課	住宅政策課	連絡先	2 2 2 - 3 6 6 6			
1 指標の説明						
市内で売買が行われた中古物件の取引件数の総数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
中古住宅を安心して取得できる環境が整備され、中古住宅の流通が活性化していることを示す指標			社団法人近畿圏不動産流通機構 中古住宅成約データ及び中古マンション成約データ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	2,096	2,117	21件増	2,313	平成30年度の目標値として3180件を設定し、現況値との差から直線補完により各年度の目標値を算出	91.5%
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		
数値		3,180件	30年度		中長期目標については、「既存住宅取得率」（住宅土地統計調査）の平成20年調査時の割合が33%であり、平成30年時点の目標を50%として、それに基づき割り戻したもの	
				住宅マスタープランの目標値（中古住宅取得率50%・平成30年度）を基に推計		
5 評価基準		6 基準説明				
達成度（最新数値／単年度目標値）が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：80%以上90%未満 d：70%以上80%未満 e：70%未満		達成度（単年度目標値に対する最新数値の割合）100%をaとし、20%ごとに区分				
		7 評価結果				
		23				
-	-	b				